

近代東アジアの漢学と教育

Education and Kanbun Studies in Modern East Asia

— 備中倉敷から東アジアの近代教育を考える —

二松学舎大学を中心とした、日本・中国・台湾・韓国・オランダ・フランスの大学教授を講師に迎え、19～20世紀東アジア諸地域の近代化過程における伝統的な学術文化の再編を、教育と漢学を軸に問い直す。日本の幕末明治期、備中地域は山田方谷・三島中洲ら著名な漢学者を輩出した。本シンポジウムでは、国際的な広がりの中で漢学および漢学者が近代化に果たした役割を、学術・教育制度・教科書・宗教・実業など多角的に討議する。

場
所

倉敷市立美術館 講堂

岡山県倉敷市中央2丁目6-1

定員

各日200名

入場無料・予約不要

1
日
目

平成 3月12日 土 11:00～16:30
28年 (受付10:30～)

基調講演Ⅰ テキストの身体化

共同討議 日本語教育と漢字・漢文

共同討議 総括講演 筆談と東アジアの文化交流

シンポジウムⅠ 近代化と儒教(文明翻訳の成功と失敗 ほか)

2
日
目

平成 3月13日 日 9:30～15:30
28年 (受付9:00～)

基調講演Ⅱ 三島中洲と清国留学生

シンポジウムⅡ 備中の近代化と漢学(山田方谷と閑谷学校 ほか)

シンポジウムⅢ 漢文教育・漢文教科書の諸問題

(明治漢文教科書に見る備中人の漢学 ほか)

二松学舎大学のあゆみ

二松学舎は明治10年(1877)10月10日に、三島中洲(現倉敷市中島出身)によって現在の東京都千代田区三番町に漢学塾として創始された。「東洋の精神による人格の陶冶」と「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」を建学の精神に掲げている。明治前期に



は東京府下の三大塾の一つと称され、昭和3年(1928)に国語・漢文の中等教員養成のための専門学校に、昭和24年(1949)に新制大学となり、平成29年(2017)に創立140年を迎える。開学以来の漢学塾の伝統を継承し、日本漢学の教育と研究にも重点的に取り組んでいる。

常設資料展示

「— 山田方谷・三島中洲とその交友群像 —」

二松学舎大学が所蔵する山田方谷、三島中洲の資料を展示します。また、大学での研究成果や、山田方谷、三島中洲と関わりの深い人物などの資料を展示します。



山田 方谷
(1805-1877)

現高梁市に出生。神童の評判が高く、江戸で佐藤一斎に陽明学を学び佐久間象山らと研鑽。備中松山藩儒となり、藩政改革に成功。「至誠惻怛」を旨として民を思いやる政治を行い、備中地域の発展に貢献。その家塾には全国から入門者が集まり、高遠な見識は維新の指導者にも影響を与えた。晩年は閑谷学校再興にも協力した。



三島 中洲
(1831-1919)

現倉敷市に出生。山田方谷に学んで頭角を顕わし、同門の川田薨江とともに方谷を補佐して藩政を支えた。明治政府に出仕し裁判官や民法編纂に従事。また東京大学で漢文を講じ、晩年は大正天皇に漢学や漢詩を教えた。また第八十六国立銀行(現中国銀行)を設立し、二松学舎で多くの備中備前出身者を教育し、地域の近代化に貢献。

主 催

二松学舎大学
倉敷市、「山田方谷の軌跡(～奇跡～)」実行委員会

お問い合わせ先

倉敷市観光課
086-426-3411